

事業の背景・目的

本事業は、松川町の果樹園に生息する環境省レッドリストで絶滅危惧種1B類、種の保存法において国内希少野生動物種であるアカモズに関して、持続可能な保全体制の構築と町民への普及啓発に取組むものです。アカモズの町内での絶滅を回避するとともに、農業などの付加価値化や住民の環境保全の意識向上も期待できます。農業等と共生する保全活動が全国に発信できるモデルとなるように取り組みを進めます。

事業の内容

・調査活動・保全計画策定

長野アカモズ保全研究グループによる調査、保全計画策定

・広報啓発事業

8/18 豊橋総合動植物公園・のんほいパークにてアカモズ保全推進シンポジウム参加 町民17名参加

11/17 地域外保全の視察 豊橋総合動植物公園・のんほいパーク視察、14名参加

アカモズ啓発番組作成 R7年1月より、地元のケーブルテレビで放送開始

1/25 令和6年度アカモズ保全状況報告会 37名参加

松川中学生、総合学習の時間での説明

地域監視員のスタッフ用ユニフォーム等作成、啓発看板作成

得られた成果

・今年度アカモズのつがいは29組確認され横ばい状態。継続的にモニタリングを実施する。

・捕食者対策による繁殖率は高く効果が出ている。（猫、カラス、ヘビなどの対策は引き続き実施する）

・農業資材による事故あり地域住民の理解のもと圃場のゴミ拾いを実施した。

・今年度2回、域外保全の豊橋総合動植物公園へ視察に行き住民の皆さんにアカモズを知っていただく機会ができた。

・今までも一部の地域では積極的に協力いただき保全活動が理解されてきたが、地元ケーブルテレビでの放送開始、視察、報告会と住民全体に周知のスタートの年になりました。

・本年度事業の効果を踏まえ専門家による児童生徒への学習会、広報、観察会で関心度の向上を図るとともに継続的に活動していく。